

メールマガジン

第四号

2006/7/19

1 目次

- トピックス
- 激しい国際競争に直面する中国の大学教育
- 著名な作家莫言氏、福岡アジア文化賞受賞
- メールマガジンへのフィードバック

2 メールマガジンへの寄稿

九州大学北京事務所では、中日研究・教育や九州大学OBの活動に関する情報、集会やイベントの案内など、メールマガジンの原稿を募集し、九州大学教職員・OB及び関係各位に配信します。ご寄稿くださる場合は、電子メールまたはファックスにて、九州大学北京事務所宛にお送りください。電子ファイルを添付していただくと、編集が効率的にできます。

3 事務所だより

- ①9月8日13:30～18:00:九州大学等主催の中日学術交流国際シンポジウム、北京市翠宮飯店にて開催。
- ②9月8日18:30～21:30:在中国九州大学同窓会第二回総会及び九州大学学長を囲む九州大学OB懇親会、北京市翠宮飯店にて開催。
- ③8月1日～8月20日にかけて、在中国九州大学同窓会理事改選 投票。投票用紙は各会員宛にメールでお送り致します。

編集代表者：九州大学北京事務所長 九州大学中国同窓会事務局長 宋 敏
発行：九州大学北京事務所 九州大学中国同窓会事務局
住所：〒100086 北京市海淀区中関村南大街甲6号铸诚大厦B座2008室
電話：+86-10-5158-1387 ファックス：+86-10-5158-1367
メール：peiking_office@yahoo.co.jp (日语) kyudai_office@yahoo.com.cn (中文)

トピックス

1

福岡出身の宮本雄二氏 在中国日本国大使 着任

在中国日本国大使が交替。6月29日(木)、新任在中国日本国大使、宮本雄二の就任式は在中国日本国大使官邸にて行われ、宋敏所長がこの式に出席しました。

宮本大使は1946年7月、福岡県大宰府出身、1969年京都大学法学院卒、同年、外務省に入り、中国語を研修し、80年代初め、90年代後半に続き3度目の北京勤務となります。日本政府の「中国学派」と称されています。3月3日に履任命令を受け、4月10日に阿南惟茂氏の後任として正式的に就任されました。

新任大使赴任後、日中関係の改善のみではなく、地元福岡と中国との絆をもっと太くすることにも期待される。

2

北京駐在大学関係者意見交換会開催

中国に駐在している日本の大学及び関係機関の交流、連携を図るためには、6月30日(金)に広島大学北京研究センター(首都師範大学校内)にて、北京駐在大学関係者意見交換会が日本学術振興会北京事務所によって開催されました。北海道大学、東京大学、東京工業大学、富士大学、金沢大学、京都大学、広島大学、九州大学、桜美林大学、早稲田大学、久留美大学などの北京駐在事務所と、日本国大使館を始めとして、日本学術振興会(JSPS)、科学技術振興機構(JST)、日本貿易振興機構(JETRO)、国際協力銀行(JBIC)、技術開発機構(NEDO)、日本国際協力機構(JICA)、国際交流基金(JPF)などの関係機関が今回の意見交換会に出席しました。

意見交換会では、まず国際基金会の小島副所長は国際交流基金の事業内容などについて説明しました。そして、日本大使館の小松領事部長が中国人留学生へのビザの発給及び日本への入国ビザの取得に関する便利な情報を提供しました。続いて、新規オープン九州大学北京事務所、京都大学合作弁公室などがそれぞれの運営近況及び将来計画などについて報告しました。

また、一橋大学北京事務所所長の折敷瀬先生の退任に伴い、福井、山口両副会長の推薦で、会議では広島大学、佐藤センター長は本意見交換会の新会長として選出されました。

次回の意見交換会は9月頃早稲田大学事務所にて開催することになりました。

3

日本農業経済学会会長 九州大学農学研究院 甲斐諭教授来所

日本農業経済学会会長、日本九州大学農学研究院甲斐諭教授が中国人民大学農村農業発展学院主催の「新農村の建設と和諧社会」学術交流フォーラムに出席するため、来中。仕事の間を縫って、2006年7月6日に九州大学

■ トピックス ■

北京事務所を訪れました。

宋敏所長、王志剛副所長との会談の中で、留学生の選抜については話題になり、近年における中国人留学生の質低下に同感を示しました。如何に優秀な中国人留学生を選出するかについては、宋所長は、他の日本の大学がそれぞれの事務所を通して、教官派遣またはテレビカメラを利用して、事前面接を行い、受け入れる留学生の質アップに取り込んでいる事例を紹介したところ、甲斐教授は九州大学北京事務所もこうした機能を持てばと大きな期待を寄せていました。



4

福岡市総務企画局長等来所

7月20日、福岡市役所総務企画局鹿野至局長、国際部「福岡アジア文化賞」担当者林国広係長、伊崎美佐子氏一行三人が事務所を訪問しました。

宋敏所長との会談中、鹿野局長は今回来中の目的、福岡アジア文化賞について紹介しました。続いて宋敏所長は九州大学北京事務所の成立目的、主な事業内容及び九州大学の中国OBの状況などについて説明しました。また、九州大学中国人OBネットワークの構築、福岡市民と福岡市民OB（九州大学中国人OB）との文化交流の促進などについても幅広く意見交換を行いました。



5

莫言氏「福岡アジア文化賞」受賞 記者会見

7月21日、莫言氏の第17回「福岡アジア文化賞」受賞の記者会見が北京人民対外友好協会にて行いました。宋敏所長がこの説明会に出席しました。説明会では、福岡市についての映像を放送した後、福岡市役所総務企画局鹿野至局長は「福岡アジア文化賞」と莫言氏の受賞理由について説明し、福岡市山崎市長を代表して、莫言氏に受賞決定書を送りました。

■ トピックス ■

続いて、中国作家協会創連部高洪波主任、在中国日本大使館 井出敬二公使等はお祝いの挨拶をしました。

数十人の報道陣からのさまざまな質問に対して、莫言氏は文学の共通性と多元性や日本文化への理解などについてのご見解を語りました。

授賞式は9月14日、福岡国際会議場メインホールにて行います。



6

2006年北京国際教育博覧会開催

北京市教育委員会の主催で、北京市国連教育科学文化機関 (UNESCO)と北京市国際教育交流センターの執行で、2006年度北京国際教育博覧会が7月21日(土)から23日(月)にかけて、北京市内にある中国国際展覽センターにて開催されました。

今回の博覧会は「開放」、「合作」、「発展」をテーマとして、展覧展示、国際教育フォーラム、中外教育服務貿易商談、文化活動の四つのサブテーマに分けて、それぞれの説明会や交流イベントが行われました。

博覧会には、中国国内の20省・自治区・直轄市からの200個余りの教育関連機関などに加えて、アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリア、南アフリカ、韓国、ドイツ、中国香港などの30カ国又は地区からの200校以上の大学が参加しました。また、マイクロソフトを初めとする教育関連製品の生産メーカー凡そ200数社も出展しました。

博覧会に参加した大学には、民間大学が多いが、北京大学、北京言語大学などの国内有名な大学のほか、ハーバード大学、ペテルスブルク大学などの世界の有名な大学の看板も見られます。日本からの広島大学なども博覧会に出展しました。

■激しい国際競争に直面する中国の大学教育■

グローバル化の浸透にしたがって、中国の大学教育が直面する国際競争も激しくなりつつある。中には優秀な学生の募集競争が最も注目すべきである。6月に今年の大學入試が終わったばかり、優秀な中国学生をゲットする海外大學が殺到。

まず、香港の香港城市大学、香港浸会大学、岭南大学、香港漢文大学、香港教育學院、香港理工大学、香港科技大学、香港大学の8校は7月の始めから、高額奨学金などの優遇な就学条件を提示して、中国本土の「優秀な学生」募集活動を展開した。ターゲットは、大學入試に抜群な成績をあげた学生です。また、今年の募集地域は昨年の17省・市に、さらに江西省、貴州省と雲南省の3省を加え、20省・市省にまで達しています。8大学の総募集人数も去年より大幅増え、1300人を超える見込みです。

また、マカオのマカオ大学、マカオ理工大学、旅行學院、マカオ科技大学、マカオ鏡湖看護學校などの6大学は2006年に中国大陸から2270人の高校卒業生を募集する予定です。なお、この6校の大学の募集地域も、去年の北京、天津などの17省・市に雲南省、貴州省、江西省を加え、20省・市にまで拡大しました。

こうした学生募集競争の中に、香港、マカオの大學のみでなく、数多くの外国の有名大学も中国の高校卒業生をゲットする競争にとび込んでいて、中国の主な大都市を回しながら、留学説明会を行い、優秀な学生の獲得に取り組んでいる。事例の一つとして、今年武漢の留学説明より海外大學における中国学生募集競争の様子を伺える。この留学説明会には、アメリカ、イギリス、フランス、スイス、シンガポール、日本、オーストラリア、カナダ、マレーシアなどの20ヶ国の大学が参加した。学生募集の方法としては、従来の留学仲介機構を通しての募集方式を変えて、大学側が直接面接試験などを行い、学生の筆記テスト以外の総合能力をも視野に入れて、学生を選抜するケースが増えている。

また、激しい競争の中で、早勝ちを主な戦略として使っている学校もある。例えば、フランスの二つの教育機構は、できるだけ多くの優れている卒業生を募集するために、普通の募集より三ヶ月も前に、南京外国語學院に来て募集の宣伝を始めました。高校卒の学生のみで無く、さらに中学校三年生、高校一年生、二年生まで遡って、学生の親と進学先を約束して、前を持って学生を「注文」するケースもある。

なぜ、多くの海外の大學が中国に進出するかについては、アメリカのある大学の関係者はこう語りました。「中国では、優秀な学生は多いが、彼らが非常に激しい進学競争に直面しているのも事実である。私たちは、こうした優秀な学生にもっと良いかつ多くの教育チャンスを提供するために、中国にやって来た」。確かに、多くの海外大學の中国進出によって、中国大陸の学生に多くの教育チャンスを与える。中国経済発展に伴って、少しずつゆたかになる中国人には、自ずから叶えられなかった海外留学夢を自分の子供に実現させたい人が多い。進学先を決める時、国内の大學と比べて、勿論、海外大學を優先する。こうした状況の中に、国内の大學はどのようにして、教育の国際化による激しい競争に立ち向かうかが大きな課題となっている。

■著名な作家莫言氏、福岡アジア文化賞受賞■

中国の文学家の莫言氏は第17回(2006年)福岡アジア文化賞受賞者に入選。

「福岡アジア文化賞」は、アジアの文化の価値を認識し、その文化を守り育てるとともに、アジア人々は相互に学びあいながら、幅広く交流する基盤を作ることに貢献することを目的として、福岡市によって1990年に創設されました。今、アジアは、グローバル化時代の到来により、文化においても画一化が迫られ、その固有の文化が失われていく恐れがありますので、アジアの固有かつ多様な文化を守り、育て、学び、その共生を進めるべきであるという考えに基づいて、アジアの固有かつ多様な文化の保存と創造に顕著な業績を上げた東アジア、東南アジア及び南アジア地域の個人または団体を顕彰することです。この賞を設定することによって、アジアの多様な文化と歴史、伝統を守り抜くことに重要な役割を果たすだけでなく、その基盤から新しいものをも生み出すこともできますことを信じております。

「福岡アジア文化賞」は大賞、学術研究賞、芸術文化賞に分けて、大賞とはアジアの固有かつ多様な文化の保存と創造に貢献し、その国際性、普遍性、大衆性、独創性などにより、世界に対してアジアの文化の意義を示した個人または団体を毎年度1人(団体)選び顕彰し、学術研究賞とは、アジアを対象とした学術研究における優れた成果により、アジアの理解に貢献した個人または団体を毎年度1ないし2人(団体)選び顕彰し、芸術文化賞はアジア固有かつ多様な芸術、文化の育成または発展に貢献した個人または団体を毎年度1ないしは2人選び顕彰します。

「福岡アジア文化賞」を創設以来、受賞者の中国人には作家巴金(1990年、第一回創設特別賞)、社会学、人類学者費孝通(1993年第四回大賞)、歴史学者王賡武(1994年第五回学術研究賞)、考古学者王仲殊(1996年第七回大賞)、映画監督張芸謀(2002年第十三回大賞)アーティスト徐冰(2003年第十四回芸術文化賞)、経済学者厲以寧(2004年第十五回学術研究賞)を挙げます。そして、今回の莫言氏の入選は、8人目の中国人受賞になります。



莫言氏は、本名官謨業、1955年2月山東省高密県のある貧しい家庭に生まれ、当時の混乱かつ貧乏の時代に、児童時代を送りました。彼の文学創作には、今さえとも子供時代に厳しい父親より受けた強い影響の影を残っている。1981年、「春の夜に雨の降り」で、作家としてデビューして以来、数多くの作品を発表しました。その代表作としては、「透明の赤大根」、「赤いこうりょう」、「酒の国」、「丰乳肥臀」などを挙げられます。彼の作品は、創作が大胆、言葉が華麗かつ滑稽で知られている。ストーリーは思いがけないほど変化に富み、作品のいたるところには、想像余地が残って、ロマンティックの情調があふれています。これらの作品には莫言氏の創作才能と天賦を示しています。彼の創作の独特の視点と才能で、海外の多くの有名な作家は、莫言氏がノーベル文学賞を受賞する実力があると信じている。彼の名作「赤いこうりょう」は、世界で最も影響力を持つ「今日世界文学」によって推薦された75年間の世界文学作品のトップ40に入選。この「ノーベル賞レベル」といわれる世界文学トップ40リストには、「赤いこうりょう」は唯一の入選漢文作である。

■メルマガへのフィードバック抜粋■

メールマガジン有難うございました。大変有用な情報が掲載されていて、感心しました。今後とも宜しく御願います。(小寺山)

メールマガジンいただきました。北京事務所の活動状況が詳細にわたり報告され、宋敏所長の活動ぶりが伺えます。お疲れさまです。これから、もっと忙しくなるとは思います。どうぞお身体を大切にさせていただきますようお願いいたします。それでは、また、吉報をお待ちしています。(田邊)

立派なメールマガジンに驚きました。ありがとうございました。(平松)

メールマガジンの1ページの下欄の九州大学北京事務所 九州大学中国同窓会事務局の下に、「編集代表者・宋 敏」を書き入れた方がいいのでは.....と思いますが。ご検討を。(辻)

おめでとうございます。力を合わせて、どんどんやりましょう。取り急ぎ、お祝いとお礼まで。(横川)

谢谢, 电子杂志已经看过, 写得很好. 接再厉, 祝 好运^^(吴)

非常感谢您每次都发送给我九州大学北京事务所电子杂志, 每一次阅读后都激起我对于日本留学经历的回忆。祝九州大学北京事务所电子杂志越办越好!(崔)

谢谢你们发来电子杂志第三期。又一次感受到九大同窗的友情。顺致 夏祺(徐)

各位同人: 很高兴收到第二期电子杂志。各位辛苦了, 谢谢! 祝一切顺利!(史)

谢谢。工作很辛苦。.....期望透过北京事务所, 也搞些日本的合作项目。(吴)

祝贺九州大学北京事务所开通, 希望今后多多联系, 增进交流。希望知道事务所的地址, 今后到北京时可以去拜访。也希望九大的相关人员来南京时和我联系。(王)

Thanks so much for sending me the news letter. It is quite informatic and interesting and I am looking forward to receiving the news letter again.(Chong)

【編集後記】

弊所メルマガをご覧頂き、誠にありがとうございます。

弊所では、このメールマガジンをより有用なものへと改善するために、皆様からのフィードバックをお待ちしております。

本メールマガジンをご覧いただく中で、改善すべき点がございませんでしょうか? 何かお気付きの点などございましたら、メールまたはファクスにてご要望やアイデアをご記入の上、弊所までお送りください。

皆様からお寄せいただいたフィードバックは、大切なご意見として承ります。頂戴しましたフィードバックは、メールマガジンをさらに役に立てるメルマガにしていくための情報として活用させていただきます。なお、頂戴いたしましたフィードバックにつきましては、個別にご返信を差し上げておりませんので、あらかじめご了承ください。